

ホーム

少しコートの襟を立て
薄い陽光の木の葉が舞う街路
何とはなしに抱き寄せたい
寂しさを、そして君からの便りを

ポケットの奥深く両手を差し込み
ベルが鳴り響くプラットホーム
あの列車に飛び乗ってしまおうか

(1984.11.19)